

発行:湘南新聞販売株式会社/編集:「ふれあい朝日」編集部 / 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町1-14/TEL0467-82-3618/FAX0467-84-0342/配布エリア:茅ヶ崎市(一部除く)藤沢市(引地川以西)綾瀬市(一部)メールfureai@asahi.email.ne.jp/URL=http://www.shonan-sh.jp/company/

新聞に関するすべてのお問い合わせ・ご連絡は 0120-033-084 朝日新聞カスタマーセンターへ 受付時間:5時~20時(日・祝17時迄)

新聞お休み・お取り置きのご連絡は 無料 やすみん サービスが便利です! パソコンから やすみん 湘南 検索 https://www.yasumin.com/shonan/ 携帯から 読み込みない場合は http://www.yasumin.com/shonan/mo にアクセスしてください。

日本の暮れの風物詩 「第九」を歌ってゆく年くる年

年の瀬の風物詩といえは...忠臣蔵、宝くじ、そしてこの時期誰しも1度は耳にするベートーヴェンの「第九」。NHK交響楽団のテレビ放映をはじめ、全国で毎年たくさんの方々が「ドイツ」のクラシック。不思議な「第九」の謎と魅力とは!?



▲昨年の「第26回第九演奏会」。オーケストラは「茅ヶ崎交響楽団」で、指揮者やソリストにはプロを招いている。合唱団は一般公募で、募集は毎年7月前後。

▲東川さん。元は中学校の社会の先生で、生徒たちの合唱に感動したのが音楽に興味を持った理由とか。

「年末の第九」のイメージは、実は日本特有のもの。この習慣が生まれた理由には諸説あり、正解は今もはっきりしない。

「年末の第九」のイメージは、実は日本特有のもの。この習慣が生まれた理由には諸説あり、正解は今もはっきりしない。一方、日本では年末に演奏されることは非常に珍しいという。長年「ちがさき第九を歌う会」の会長を務める東川宏さん(71)写真によると、「しつくりきたからが一番の理由では?」。「4楽章ある曲の中で最後の最後だけ力強い『歓喜の歌』の合唱が入り、グッと盛り上がる構成と、頑張った1年の締めめという雰囲気があったり、たまたまに自然と慣習になったのではないかと思います」

歌詞の内容については、「ドイツの詩人シラーの『歓喜に寄せて』を編集したのですが、ベートーヴェンは『すべての人々が兄弟となる』という曲と、地上に生きるすべての人へ向けてこの曲を作ったのではないのでしょうか。人類愛と世界平和への願いが込められた歌を、新年に向けて心を一つにして歌い上げる。そんなところが年末の合唱に適しているのかも知れませんね」



▲真剣な雰囲気だが、合間には楽しそうな笑い声も。



▲歌う会の「期待の星」西尾翔くん(左手前)。

毎年恒例の同会による演奏会は今年で27回目(12月4日)で、詳細は下記。震災以降の日本の現状から「歓喜の歌」を自粛するべきかという迷いもあったが、「今だからこそ歌い、届けるとき」と開催を決定したという。強い意気込みを語ってくれた。観客側にも「これを聞かないと1年を終えられない」という常連さんが多く、動員は例年1000人前後を数えている。今年もまた、歌う人、聴く人すべての胸に、それぞれの「第九」が響くに違いない。「1年間お疲れ様。また来年も、いい年でありませうように」...

メンバーは毎年全員が公募で集まり、全くの初心者も多い。今年参加者は、上は80代下は小学5年生まで全180名。「混声四部のハーモニーが溶け合っていて、できたー!」と思える瞬間がある。何ものにも代えがたい「合唱ならではの感動です」(東川会長) 第8回から何度も参加しているアルトパートの沼上純子さん(50代)は、「初心者も経験者も世代を超えて、皆で一緒に歌えるところが好きです」と楽しそう。今回初参加で最年少の西尾祥くん(10)は、「先生の教え方が面白くて、歌うのが楽しい。来年からもずっと続けたい」と、強い意気込みを語ってくれた。

要注意! 被害が続いています! 振り込め詐欺 7面 プレゼント 珈琲専門店「ビーンズ香房」の珈琲チケットをペアで! 7面 チャレンジ 簡単すぎるスケルトンパズル 6面 湘南のお店 12月 忘新年会お勧めプラン 2面・4面 大募集 初詣バスツアー(1/9)に行ってみよう 8面

聴いてみよう! 近隣の第九演奏会 12/4(日) 茅ヶ崎市民文化会館大ホール 東日本大震災復興支援 第27回 第九演奏会 12/4(日) 平塚市民センターホール 第21回 湘南ひらつか第九のつどい 1/22(日) 綾瀬市文化会館大ホール 第九コンサート 「歓喜の祭典」~写真展同時開催~

諸説あり、年末に第九なワケ レクイエム説 戦況が悪化する中の1943(昭和18)年、出陣学徒壮行のために東京音楽学校(現・東京藝術大学音楽部)で演奏され、終戦から4年後の年末には、戦死した学徒への鎮魂歌(レクイエム)として再び演奏された。これが毎年開かれるようになり、全国へ波及していったという説。 NHKのラジオ効果説 1940年代、NHK職員の発案による年末のラジオ放送が恒例化していくと同時に、日本初のプロ・オーケストラ「新交響楽団(現・NHK交響楽団)」が「第九公演」を複数回行うようになる。更に、1950~60年代には勤労者音楽協議会(通称:労音)主催でアマチュアの合唱による「第九」も盛んになったことから浸透したという説。

【参考文献】 『「歓喜に寄せて」の物語』(矢野龍渓著)、「知っているようで知らないベートーヴェンおもしろ雑学辞典」(ベートーヴェン雑学委員会編)、「歴史がおもしろい!シリーズ図解太平洋戦争」(後藤寿一監修)